

平成29年度 介護老人福祉施設檜山荘 事業計画書

(基本方針)

介護老人福祉施設檜山荘は、今まで以上に地域福祉の拠点としての機能を充実させ、地域住民より信頼される施設となるよう努力します。入浴、排泄、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上のお世話をを行うことにより利用者がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようにすることを目指し、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って介護福祉施設サービスの提供に努めます。

施設は、明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、職員が一丸となって日々研鑽してより専門的な介護サービスの提供に努め、危機管理意識を高め、リスクマネジメント機能の徹底を図り、安心、安全な日常生活の支援を行います。

(介護サービス)

利用者個々の自立支援と生活の質の向上に努め、安心・安全に生活できる施設づくりを目指し、ケアプラン・栄養ケア・リハビリ計画書により介護サービスの充実に努めます。職員間や各部所間の連携を図り、報告・連絡・相談を密に行い、より良い生活環境や施設づくりを目指します。

機能訓練計画書により個々に応じた機能維持、低下予防に努め、離床や訪室の機会の中で気分転換や精神活動面への働きかけも行っていきます。

(認知症利用者の対応)

認知症を有する利用者は、不安から様々な行動が現れることを念頭に置き、ユニット全体を家庭的な雰囲気にすることで暮らしの継続がなされ、落ち着いた心身状態をつくる様に働きかける。利用者の認知症状の正確な把握に努め、利用者の症状に合わせた介護、利用者の有する機能(潜在能力)を十分に活用しADLの維持に努める。ADLの機能低下については様々な障害(脳の器質的障害により知的・認知・運動機能の低下、注意集中の困難や意欲の低下等)が考えられ、これらの障害に対して十分な理解と情報の共有を図ることにより介護の統一をはかり、利用者の精神的な不安を取り除くことで安定を図る。

具体的な取り組み：アセスメントから評価・記録等の流れを理解し徹底する。

アセスメント⇒ 計画⇒ モニタリング(観察・評価)⇒ 再アセスメント…

職場研修：認知症実践者研修・認知症リーダー研修・各種認知症研修・セミナー等。

(健康管理)

施設の医師又は看護職員は、常に利用者の健康の状況に注意し、体調の維持、疾患の管理、疾病の予防に努め、心身共に穏やかな生活が送られるよう、各部所や委員会・部会と連携して細やかな対応を行い、適切な措置を行います。

健康診断として年に1回の胸部レントゲン、年2回の血液検査・心電図・インフルエンザ予防接種を行い、施設内での感染症予防と拡大の防止に努めます。

(看取り介護)

利用者が疾病或いは障害等により意思の疎通が不可能になり回復不能な状態に陥った時に、看取りを行う場所及び治療等について本人の意思を最大限に尊重すると共に、家族の意向を尊重して行います。

医師及び医療機関との連携を図り、多職種協働体制のもとで利用者及び家族の尊厳を支えるよう努め、可能な限り尊厳と安楽を保ち、「看取り介護」の充実に向けて職員の意識向上を目指します。

(リハビリ)

個別機能訓練計画書に基づき、個々に応じた身体機能維持、低下予防に努め、離床や訪室の機会の中で気分転換や精神活動面への働きかけも行います。

(部会・委員会)

<レクリエーション部会(アクティブ部会)>

- * 荘全体の行事(夏祭り、敬老会、お茶会、Xmas会、雛祭り)を家族やボランティアの協力を得ながら計画し実施します。
- * 個人の希望や身体状態に配慮し、楽しみや喜びを感じられるよう様々なアクティビティーを計画し実施します。
- * 花見・買い物・地域の行事への参加等外出する機会を持ちます。
- * 誕生日には家族にはがきを送ります。

<栄養食事部会>

- * 楽しく美味しく安全に食事接種が出来る様にします。
- * 誕生日には、利用者様の希望に沿える献立でお祝いします。
- * 利用者様が季節を感じられるような食事を提供します。
- * 個々に合った形態で食事を提供します。

<入浴排泄部会>

(入浴)

- * 個々に合った入浴方法を検討し安全で安心して入浴できるようにします。
- * 入浴前や入浴時の体調の変化や全身の状態を観察し対処します。

(排泄)

- * 個々に応じた時間や方法を考えて気持ちよく排泄出来るよう検討します。
- * 利用者が気兼ねなく排泄介助を頼められるような関わりを持つよう意識していきます。

<褥瘡トランスファー部会>

- * 職員の知識、技術向上の為に研修会などの機会を持ちます。
- * 個々に合ったポジショニングや移乗方法を考え、職員間の連携や統一を図り利用者一人一人が「安心・安全・安楽」な生活が送れるよう努めます。
- * 部会で検討したポジショニングを伝達していきます。
- * 年2回、事故防止研修を行います。

<身体抑制部会>

- * 身体抑制が及ぼす弊害を深く認識し、利用者一人一人の尊厳を守り「安心・安全」な生活が送れるように努めます。
- * 日々のケアの中で身体抑制となるか否かを検証し改善に繋がります。
- * 職員間で意識統一を図り、より良質で適切なサービスを提供します。

※各種の個別ケア計画や担当職員、他部所との連携や調整を図りながら、各委員会や部会は必要性に応じて、定期及び随時にメンバーを招集し開催します。会議は柔軟に時間帯を選択し、業務や勤務への負担が軽減できるように工夫して行います。

(家族会)

家族との連絡連携、協力を得ながら家族会活動を計画し、年2回実施します。
その他、制度改正等報告義務が発生した時はその都度、家族会を開催します。
※家族と相談し、了承を得ながら私物管理を行います。

(地域交流)

ボランティアの受け入れ、民生委員、地域住民との交流を図り、地域に開かれた施設を目指します。

(防災管理)

施設は、非常災害その他緊急の事態に備え、必要な設備を整えるとともに、常に関係機関と連携を密にし、とるべき措置についてはあらかじめ消防計画を作成し、消防計画に基づき年2回以上総合防災訓練(消防団と合同)を実施し、特に災害弱者を抱える施設として利用者及び従事者等の訓練を行います。災害時には地域組織との連携を図り、地域の福祉避難施設として機能します。

(苦情処理)

事業者は、利用者からの相談、苦情等に対応する窓口を設置し、施設の設備またはサービスに関する利用者の要望、苦情等に対し、迅速に対応します。

(安全管理)

安全・安心を基本に生活を見直し、衣食住すべての角度から安全点検を実施してリスクの低減と排除に努めます。

(組織管理)

利用者や家族、その他関係者に対して、誠意を持って接します。

*個人情報保護

個人情報保護に関する法令、その他の規範を遵守し、個人情報の保護に努めます。

*虐待防止

介護施設の職員としての意識を高め、質の高い介護・看護サービスの提供が行えるように職員研修を実施します。

※事故防止研修(2回/年)、感染症予防研修(2回/年)、認知症ケア研修を計画的に実施、各部会や委員会からの要望に応じて、積極的に施設内外での研修や視察研修などの機会や体制を確立します。

※緊急時においては、施設長が状況に応じた対策委員会を招集します。

※5月1日を創立記念日とします。